

尿管癌との鑑別に苦慮した尿管子宮内膜症

奥田知史^{1)2)†} 村上泰清²⁾³⁾ 秋元 翔¹⁾²⁾ 天野統之¹⁾²⁾ 平山貴博¹⁾²⁾

IRYO Vol. 77 No. 6 (435-438) 2023

要旨

症例は40歳代、女性。健診腹部超音波検査で右水腎症を指摘され、国立病院機構相模原病院泌尿器科(当科)紹介受診した。尿管鏡検査で右下部尿管に腫瘍性病変を認め、尿細胞診はclass IVであった。右尿管癌の可能性を否定できず、腹腔鏡下右腎尿管全摘術を施行した。病理組織学的診断は尿管子宮内膜症であった。

キーワード 尿管子宮内膜症, 尿管癌, 腹腔鏡下腎尿管全摘術

緒言

尿管子宮内膜症は稀少部位子宮内膜症のなかでもまれであり、内膜症全体の0.1-0.4%とされる¹⁾。尿管子宮内膜症は診断が困難で、術後の病理診断で判明したとする報告が散見される¹⁾。今回、われわれは尿管癌との鑑別が困難であった尿管子宮内膜症の1例を経験した。

症例

患者：40歳代、女性

主訴：右水腎症

家族歴：特記すべきことなし

既往歴：先天性白内障

現病歴

健診腹部超音波検査で右水腎症を指摘され、精査加療目的に国立病院機構相模原病院泌尿器科(当科)紹介受診した。

現症：

腹部は平坦、軟で、圧痛を認めず、背部の叩打痛を認めなかった。

血液生化学検査：

WBC: 8760/ μ l, Hb: 13.0 g/dl, Plt: 27.2万/ μ l, TP: 6.6 g/dl, Alb: 4.4 g/dl, BUN: 16.9 mg/dl, Cr: 0.81 mg/dl, AST: 15U/L, ALT: 6U/L, BS: 91 mg/dl, HbA1c: 5.5%, Na: 141 mEq/L, K: 5.2 mEq/L, Cl: 106 mEq/L, CRP: 0.01 mg/dl

尿検査：

pH: 6.5, 尿潜血陰性, 尿蛋白陰性, 尿糖陰性, 尿沈渣；赤血球 \leq 1/HPF, 白血球 \leq 1/HPF

画像検査：

1) 国立病院機構相模原病院泌尿器科 2) 北里大学医学部泌尿器科 3) 村上クリニック †医師

著者連絡先：平山 貴博

国立病院機構相模原病院 泌尿器科

〒252-0392 神奈川県相模原市南区桜台18-1

e-mail: hirayama.takahiro.wz@mail.hosp.go.jp

(2023年5月30日 2023年8月4日受理)

A Case of Ureteral Endometriosis with Difficulty in Differential Diagnosis from a Ureteral Carcinoma Satoshi Okuda¹⁾²⁾, Yasukiyo Murakami²⁾³⁾, Sho Akimoto¹⁾, Noriyuki Amano¹⁾, and Takahiro Hirayama¹⁾

1) NHO Sagami Hospital, 2) Kitasato University School of Medicine, 3) Murakami Clinic

(Received May 30, 2023, Accepted Aug. 4, 2023)

Key words: ureteral endometriosis, ureteral carcinoma, laparoscopic nephroureterectomy